

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月29日

【評価実施概要】

事業所番号	3271700134		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホーム やすらぎ		
所在地	島根県大田市仁摩町仁万1028-1 (電話) 0854-88-2335		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟町43番地		
訪問調査日	平成21年1月7日	評価確定日	平成21年2月9日

【情報提供票より】(平成20年12月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤4人, 非常勤5人,	常勤換算4.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋 造り
	1階建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	12,000円
敷金	有(円)	無○	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800円

(4) 利用者の概要(平成20年12月19日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2名	1名		
要介護3	7名	要介護4名	0名		
要介護5	0名	要支援2名	0名		
年齢	平均 87.6歳	最低	73歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大田市立病院・石東病院・須田医院・泉歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「利用者が喜んで日々満足した生活をしてくれる事が第一」という管理者の思いで利用者本位のケアにつながる支援をしている。また毎日体操・レクレーションを繰り返すことで、身体機能の維持もはかられている。利用者の年齢も上がり、身体機能も下がってきている中で、どのような介護支援が良いか話し合いながら取り組まれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域密着型としての理念,家族への報告,市町村との連携,多機能性」など取り組み改善した。「家族の意見の反映,同業者との交流,災害対策,重度化・終末期に向けた方針」などについては継続して取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	毎月職員アンケートで自己評価を行い意見を聞いて管理者が中心となって、一週間をかけて取り組みまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	二ヶ月に1回開催している。行事・防災体制などについて報告し、参加者からの意見、質問等が主な内容である。地域でのホームの存在価値が認められて来ている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会時に必ず意見や要望を聞くようにしている。また遠方の家族からは電話連絡時に相談や意見を聞いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当初より自治会にも加入し、日常の挨拶や散歩時の見守りある。また野菜や花の差し入れもある。運営推進会議の地域メンバーの方や幼稚園児の来訪も有り徐々に交流が出来ている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型のグループホームとして、新しい理念「地域と共に・ふれあい・想いあい・支えあい」を掲げ支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員の採用時に理念について話している。理念に沿って日々のケアに取り組んでいる。	○	利用者の権利について明文化をお願いしたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、行事や溝掃除、草刈りに参加したり、散歩時の挨拶など交流している。幼稚園児の散歩コースとなっていて時々一緒に楽しい時を過ごしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で話し合い、管理者が中心となって自己評価を行ったが、改善課題を共有するまでには至っていない。	○	さらなる共有化の工夫を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し、ホームでの利用者の様子や取り組み、外部評価の結果、相談員制度についてなど報告している。	○	運営推進会議の内容をより充実させ効果的な活用を工夫されたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近くの仁万支所にはよく足を運び、相談や介護情報など聞かせてもらいサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時にホームでの様子や、金銭管理報告を行っている。遠方の家族には電話で連絡している。今年から定期的ではないが便りを出し喜ばれている。	○	さらに定期的な便りの発行を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満が家族の苦情になると考え、面会が終わった後に意見を聞くようにしているが、今のところ苦情はない。	○	さまざまな工夫を考えられて、苦情に限らず、なんでも相談できる関係を構築されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ない。異動時は主任が一定期間付き添って支援し利用者への影響を最小限に抑えるよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市が行う研修などに希望参加している。また現場の主任が日々の場面で対応の仕方や分らない事をアドバイスし、職場会議では職員の自己評価アンケートを基に話し合いをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は、大田市のグループホーム部に参加し勉強会、ネットワークづくり等取り組んでいる。	○	出来る部分からでいいので、同業者との相互訪問なども検討されることを望みたい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や、おためし入居など家族と相談しながら、利用者が馴染め安心して生活できるよう一人ひとりに合った方法で対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から昔の習慣や、季節ごとの料理や掃除の仕方など教えてもらっている。落ちこんでいる時に声を掛けてもらったり、また「ありがとう」の感謝の言葉をもらうことで支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の希望や思いを聞くようにしている。困難な場合は、時間を掛けて寄り添って、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画担当者が本人や家族の思いや意向を聞き、職員カンファレンスで話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月職員の自己評価アンケートを基に利用者の変化や気づいた事を会議で話し合いながら、チェックしてモニタリングをし、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて受診、通院支援、特別な外出外泊支援を行っている。また対応可能な時期での早期退院の支援もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診支援をしている。いつでも対応して頂ける協力医院で、毎月往診もおこなわれ信頼関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り体験をしたことによって、職員に自信と誇りが出来た。ターミナルケアのマニュアルもみんなと話し合いながら作成しつつある。	○	良いマニュアルが出来る事を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	毎日の生活の中で言動に注意をし、さりげない介助や誘導に心がけながら利用者のペースにあわせてゆっくと支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々その人らしい暮らしを常に大切に、独りにならぬよう気を配り、寄り添いながら支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片づけまでの間で、野菜の皮むき、米とき、テーブル拭きなど出来る人が出来る事を一緒にいながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には、週三回の入浴である。利用者の希望があれば入浴日以外はシャワーをしている。希望に沿うようにする考えはある。	○	利用者の希望に沿った日、時間に入浴を楽しめる柔軟な支援を期待する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の楽しみごとや、得意な事を把握している。献立書き・新聞取り・花活け・手すりのふき掃除・野菜の下ごしらえ・畑仕事など一人ひとりの役割がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にはホームの周りの散歩や庭での草とりやひなたぼっこ、買い物に出かけられる方もある。天候のいい時は戸外で過す時間が持てるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関も日中は鍵を掛けていない。出かけられたときは見守りをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、通報、非難、消火訓練を行った。当日事前に地域には連絡してあったが知らなかった近所の人が非常ベルを聞き、バケツを持って救援に駆けつけてくれた。	○	災害に対して地域との協力関係を作られる事を期待する。又備蓄についても出来る事から手がけられたい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取状況は把握している。利用者の状態に応じた対応（お粥、刻み食など）もしている。定期的に栄養士のチェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からは畑や山を眺められ、室内は畳の間もある。利用者は安心して過ごせる居場所があり、それぞれが思い思いに過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の持ち物込まれたタンスや仏壇、写真等好みに合わせて配置されて、それぞれが使いがってが良い居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。

